

科目名	異文化間 コミュニケーション論特講	担当者	ニシダ 西田 ツカサ 司	期間	通年	単位数	4
-----	----------------------	-----	-----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>1914年に誕生したアメリカの学会は、現在、National Communication Association となり、40以上の分科会を有する世界最大の学会に成長した。その内の1つである異文化間コミュニケーション分科会は、1972年12月に発足し、現在17の理論が構築され、関連する概念、そして方法論が明示され、実践された。コミュニケーションの行われるコンテキストについても研究が進んだ。</p> <p>本講座の目的は、異文化間コミュニケーションの領域を理解するのを主とし、同時期にその研究が始まったインターパーソナルコミュニケーションとノンバーバルコミュニケーションの領域を理解するのを副とする。</p> <p>以上の目的を達成することにより、豊かな知識と教養に基づく高い倫理観を習得すると共に、倫理的及び批判的思考能力をはじめ、問題発見力・問題解決力、コミュニケーション能力、省察力を身につけることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>グローバル社会において文化背景の異なる人々との共生に必要な知識とコミュニケーション能力をつけることである。具体的には、コミュニケーションの見方とコミュニケーション能力、そしてグローバル社会におけるコミュニケーション能力と非言語メッセージについて知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>学修者は、初期コミュニケーション能力 (ホフステードの次元)、異文化コミュニケーション能力を身につけ、そして非言語のメッセージの解読・伝達能力(ジェスチャー、表情、視線、接触、接近性)を要請する。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書に載っている認知能力やコミュニケーション能力については、学修者自身の数値を算出してください。 manaba folio の掲示板を利用し、受講者同士の共同学習を利用してください。 図書館、インターネットで文献資料を検索し、レポートを作成してください。 <p>【学修方略 (LS) と学修時間】 80</p> <ul style="list-style-type: none"> 教材の熟読、OERによる自律的学習、参考文献の検索と批判的リーディング、レポートの作成。 学修時間については、各レポートの準備から完成までに、次の目安に45時間の学修時間を要するものとする。 <p>教材の学修：15時間、レポートの執筆：15時間、レポートの推敲最終稿の完成：15時間</p>		
スケジュール	<p>前期レポート課題1 初稿は授業の始まり次第提出可。最終稿は学事暦で定められた日までに提出。</p> <p>レポート課題2 初稿は授業の始まり次第提出可。最終稿は学事暦で定められた日までに提出。</p> <p>後期レポート課題1 初稿は授業の始まり次第提出可。最終稿は学事暦で定められた日までに提出。</p> <p>レポート課題2 初稿は授業の始まり次第提出可。最終稿は学事暦で定められた日までに提出。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	要約の正確さ、要約の構成、文章表現の妥当性考察の独創性、引用の適切性、論旨の明確さ、注のつけ方の適切さ
	観察記録	20%	草稿の改善度：草稿への加筆、修正 レポート添削への対応
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> 要約問題については、課題の章を熟読し、定めた文字数に、バランスよくまとめてください。要約した文字数が定めた文字数よりもはるかに多くなった場合、教科書をもう一度読むのではなく、次回は自分の作った要約からさらに要約し、文字数を調整してください。 考察の課題については、次の2点が重要になります。 <ol style="list-style-type: none"> 要約した章で用いられている専門用語を用いて論旨を展開する。 テーマに関する知識と経験をもとに考察する。 教科書以外の文献から引用することも勧めます。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： ブリブル・チャールズ 教材名： 『科学としての異文化コミュニケーション』（ナカニシヤ出版、2010年） ISBN:978-4-7795-0080-0 1,800円＋税
	本書は、アメリカの論文や専門書をベースに、わかりやすく解説した教科書です。多分に、1970～80年代の異文化コミュニケーションの文献を参考にしています。その点から見れば、異文化コミュニケーションという領域を偏りなく、バランスよく理解するには、よい入門書といえます。最初の4つの章でコミュニケーション及び異文化コミュニケーションの基本について述べ、第5章で非言語コミュニケーションを扱っています。本書の後半は、翻訳・通訳を含めた異文化コミュニケーションについて解説しています。
参考図書	小川直人『多文化共生と異文化コミュニケーション—台湾における東南アジアからの人々との共生』（八潮社、2020年）ISBN:978-4-86014-097-7 2,000円＋税
履修上のポイント	教科書には、コミュニケーション能力及び個人の文化的特徴を測定する尺度（アンケート）が掲載されています。まず、これらの尺度に記入し、自己の数値を算出し、自分のコミュニケーション能力と、自己の持つ文化的特徴を理解することから初め、各章のテーマを理解してください。
レポート課題 1	要約：教科書第1章～第5章の中から3つの章を選び、3,000字で要約する。 考察：選択した章の中から1つの章（あるいは1つのテーマ）について、知識や経験をもとに、1,000字で考察する。 留意点 ： 考察では、要約で用いた専門用語を使って論旨を展開することが肝要です。
レポート課題 2	要約：教科書第6章～第11章の中から3つの章を選び、3,000字で要約する。 考察：選択した章の中から1つの章（あるいは1つのテーマ）について、知識や経験をもとに、1,000字で考察する。 留意点 ： 考察では、要約で用いた専門用語を使って論旨を展開することが肝要です。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： リッチモンド, V.P. & マクロスキー, J.C. 教材名： 『非言語行動の心理学』（北大路書房、2001年） ISBN:978-4-76-282220-9 3,200円＋税
	本書は、メッセージを構成する非言語のサイン全体をテーマとしていて、コミュニケーション全体を理解するには、最適の専門書です。概念の解説に続き、ジェスチャー、感情表現、対人距離、接触、接近性といったテーマを含め、後半の章では、前半の基礎概念を用い、実践的なコミュニケーションの場や状況での非言語のメッセージについて解説しています。
参考図書	大坊邦夫『しぐさのコミュニケーション』（サイエンス社、2006年） ISBN:978-4-78-190888-5 1,500円＋税
履修上のポイント	本書は、アメリカのおおよそ50年間の非言語コミュニケーション研究の集大成というべき図書である。1970年代機構の研究結果がまとめられており、ハンドブックあるいはエンサイクロペディアといった内容と構成になっている。 本書の各章には、用語集がつけられているので、基礎概念を理解するために、あるいは要約の作業の際に使ってもらいたい。
レポート課題 1	要約：第2章～第9章の中から3つの章を選択し、3,000字で要約する。 考察：選択した章の中から1つの章（あるいはテーマ）について、知識や経験をもとに、1,000字で考察する。 留意点 ： 考察では、要約で用いた専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要です。
レポート課題 2	要約：第10章～第13章の中から2つの章を選択し、2,000字で要約する。 考察：選択した章の中から1つの章（あるいはテーマ）について、知識や経験をもとに、1,000字で考察する。 留意点 ： 考察では、要約で用いた専門用語を用いて、論旨を展開することが肝要です。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章、第 2 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 3 章、第 4 章、第 5 章
第 3 回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第 4 回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の第 6 章、第 7 章
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の第 8 章、第 9 章
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の第 10 章、第 11 章
第 11 回	図書館での検索資料の学修
第 12 回	図書館での検索資料の学修
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の第 2 章、第 3 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の第 4 章、第 5 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の第 7 章、第 8 章
第 4 回	教材の学修：基本教材 2 の第 9 章
第 5 回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第 6 回	参考図書の学修及び図書館での検索資料の学修
第 7 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 9 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 10 回	教材の学修：基本教材 2 の第 10 章、第 11 章
第 11 回	教材の学修：基本教材 2 の第 12 章、第 13 章
第 12 回	図書館での検索資料の学修
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成